

本校における総括について

江戸川区臨海小学校

1 観点別学習状況の観点ごとの総括

観点別学習状況の評価のための総括の場面として

- ① 単元（題材）における観点ごとの評価の総括
- ② 学期末における観点ごとの評価の総括
- ③ 学年末における観点ごとの評価の総括を ABC の 3 段階で行う。

（1）単元（題材）における観点別学習の観点ごとの総括

単元（題材）において、具体的な学習活動に即して設定したいいくつかの「学習活動における具体的な評価基準」ごとに評価を行い、観点ごとにそれらの評価結果を総括する。

総括の方法は、評価基準の数が 3 つあり、A を 3 点、B を 2 点、C を 1 点として学期の合計点数で評価をつける。

9 ～ 8 点以上で、A 7 点 ～ 5 点以上で、B 4 点 ～ 3 点以上で、C と考え総括する。

また、各学期の評価の評価が BAB のように評価結果が同じでない場合、また、CBA のように評価結果が向上していった場合や ABC のように下降していった場合は、教科の特性や評価の観点に示された資質や能力の向上を重視したりするなど、その実現状況を適切に総括して評価する。教科によっては、指導のねらいや授業時数、評価方法に応じて、評価基準に重みをつける場合がある。

（2）学期末における観点別学習状況の観点ごとの総括

学期末における総括については、（1）で総括した単元（題材）における観点ごとの評価結果をもとに行う。学期末における観点別学習状況の評価（「A・B・C」）を導く総括の方法としては、（1）の考えに立つ。

例

	一学期	二学期	三学期		観点別	
知識及び技能				⇒	A 3 点	⇒ B 6 点
思考力・判断力・表現力					B 2 点	
主体的に学習に取り組む態度					C 1 点	

（3）学年末における観点別学習状況ごとの評価の総括

各学年末における評価結果をもとに行う。学年末における観点別学習状況の評価（「A・B・C」）を導く総括の方法としては、上記（1）で同様の考え方で行う。

	A	A	A	A	B	A	B	A	B	C
	A	A	B	A	B	B	B	C	C	C
	A	B	B	C	B	C	C	C	C	C
合計点	9	8	7	7	6	6	5	5	4	3
総合評価	A	A	B	B	B	B	B	B	C	C

上記（1）から（3）の総括において、学習の最終段階の評価を重視する考え方については、途中段階の評価をおろそかにならないように配慮する。

2 観点別学習状況の評価への総括

(1) 観点別学習と評定の表示

観点別学習状況については、現行の指導要録と同様、次のように3段階で評価する。

- 「十分満足できると判断されるもの」をA、
 - 「おおむね満足できると判断されたもの」をB、
 - 「努力を要すると判断されるもの」をC
- また、評定については、3段階で評価する。
- 「十分満足できると判断されるもの」を3、
 - 「おおむね満足できると判断されるもの」を2、
 - 「努力を要すると判断されるもの」を1

(2) 観点別学習状況の評価の評定への総括の考え方

観点別学習状況の評価および評定への総括においては、3観点の重点の置き方に関わらず、小学校については、3観点の評価（左から「知識及び技能」「思考力・表現力・判断力」「主体的に学習に取り組む態度」）が「A・A・A」であれば、「3」「B・B・B」であれば、「2」「C・C・C」であれば「1」となる。学年末に総括した観点別学習状況の評価結果を総括し、評定とする。

各教科の学習活動の特質、評価の場面や評価基準、児童の発達段階に応じて、ペーパーテスト、ワークシート、学習カード、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポートなど様々な評価方法の中から、その場面における児童の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

また、評価が学期末や学年末などに偏ることのないよう、評価の時期を工夫することや、学習の過程における評価を一層重視することなど、評価の場面についても工夫を加える。

一般的に、ペーパーテストについては、学習の実現状況を客観的に示すものと受け止めがなされており、このことが、先に述べたように評価方法として、ペーパーテストを重視することにも繋がっていると考えられる。しかし、ペーパーテストは、評価方法の一つとして有効であると考えられるが、それによって得られる結果が、目標に準ずる学習の実現状況の評価結果として直ちに直結するものではないことを、改めて認識する必要がある。

ペーパーテストにおける設問のねらいを明確にし、個々の問題を正答したのか、仮に正答に達しなかったとしても、どこまで解答できたのか、全体では、何割の正答を得ていたのかといったことが、学習の実現状況と結びついて解釈できるよう、問題内容を更に工夫改善することが求められる。

さらに、ペーパーテストについては「知識及び技能」の評価に偏ることなく、「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の評価も含め、児童の資質や能力を多面的に把握できるようにしていくことが大切である。

	A	A	A	A	B	A	B	A	B	C
	A	A	B	A	B	B	B	C	C	C
	A	B	B	C	B	C	C	C	C	C
合計点	9	8	7	7	6	6	5	5	4	3
評定	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1